令和７年度学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校

第３回学校運営協議会　（令和８年２月２０日Ｉ８：００～　八田小学校視聴覚室）

＜学校運営協議会委員＞

会長	穴水　秀人	（学識経験者　元小中学校長）
副会長	湯沢　信	（地域有識者）
委員	前橋　麻里子	（保護者代表　Ｒ７年度小学校ＰＴＡ会長）
	山本　なぎさ	（保護者代表　Ｒ７年度中学校ＰＴＡ会長）
	土橋　秀徳	（住民代表　自治会長）
	清水　芳文	（地域有識者　元八田中学校ＰＴＡ会長）
	大堀　修己	（学識経験者　元八田小学校校長）
	笹本　学	（地域有識者　元小中学校校長）
	藤巻　孝也	（地域有識者　八田小学校後援会長）
	井上　孝雄	（自治会長代表　八田地区教職員研究会会長）
	窪田　淳子	（市青少年育成会議八田支部長）
	長澤　廣秋	（八田地区地域コーディネーター）
	石原　裕	（小学校校長）
	神宮司　剛	（中学校校長）

※生徒・保護者・教職員を対象に行ったアンケートを基に作成した「自己評価書」をベースとして、成果を検証し、次年度へつながるように、ご意見をいただいた。

意見

１　学校生活にかかわる項目

【小中共通】

〇先生方のおかげで、多くの児童生徒が「学校生活が楽しい」と回答しているので、今後も継続できるように頑張ってもらいたい。
ただ、楽しいと感じられていない児童生徒、そして保護者も１割弱みられる。少数であるが、新たな不登校をうまないためにも、この点にも目を向けていってほしい。

【小】

〇「学校が楽しい」と答える児童・保護者がいずれも９割を超えている。学校が行っている様々な取り組みにより、心理的安全性が保たれていることは何よりである。今後も楽しい学校づくりを推進してほしいとともに、少数ではあるが「学校が楽しくない」と回答した児童や保護者にも寄り添い、その原因をともに探り、誰一人取り残さない楽しい学校づくりに努めてほしい。

【中】

〇中学校でも学校への満足度は非常に高く、安定した学校生活が送れているようで何よりである。思春期に気持ちの揺れやすい時期にも関わらず、心理的安定感が保たれていることが素晴らしいと思う。小学校と同様、少数派の「楽しくない」という生徒に寄り添い、時にはＳＳＷや心理士など専門家にもつなげながら、今後も、誰一人取り残さない安心した学校づくりに努めてほしい。

２　学習指導にかかわる項目

【小】

〇授業中の姿勢（６９．７％）について、「静かに座る（姿勢）はできているが、主体的に参加する（姿勢）が伴っていない。」と分析されてあるが、児童にとっての「姿勢」は、「ピンと背筋を伸ばして話を聞く」「静かに座っている」という学習規律としての「姿勢」での評価ではないだろうか。その意味で、学習規律が崩れてきているという児童からのシグナルなのかもしれない。協働的な学びや学習者主体の学びが進む中、学習規律がなし崩し的になってしまわないように気をつけていく必要があると思う。友達と話しながら自分のペースで学ぶ時間、しっかり先生や友達の話を聞く時間とメリハリをつけ、学習規律や学習ルールを互いに守っていくことも、相手を尊重し学び合うためには必要だと思う。「発表」の割合がやや低いが、これも、聞いてくれる安心できる環境があるからこそ発表できるのではないだろうか。「伝える」と「聴く」、「主体的な学び」と「学習規律」、それらを両輪で育てる学校で今後ともあってほしい。

【中】

〇「授業のわかりやすさ」「発表」など授業に関する生徒の項目が、小学校に比べ５～８％あがっている。これは教科の専門性の高い中学校の授業の面白さ、専門性を高めている中学校の先生方のご努力とともに、小学校からの授業の積み上げの成果であるとも思う。八田小中学区の「学習をつなぐプロジェクト」の成果としてあげてよいと思う。今後とも、より一層「学習をつなぐプロジェクト」をすすめてほしい。

３　小中一貫教育にかかわる項目

【小中共通】

〇教職員評価の（８）や（９）が小中学校ともやや低くなっている点が気になります。小中一貫教育の中で何を取り組むのか、まずは教職員が意識することは大切だと思います。
また、（１０）の評価については、小学校と中学校で評価が分かれているので、何をもって評価したのかを話し合い、交流のとらえかたの統一も必要ではないか。

〇小学校でも中学校でも課題は同じなのが興味深い。（「家庭学習」「スマホの使い方」「読書」「授業中の姿勢」）ここの背景を考え、改善策を小中で考えていくことで、９年間の児童生徒の成長が一層深まることと思う。

４　安全教育にかかわる項目

【小中共通】

〇学校での情報モラルに対する取り組みの成果として、スマホのルール作りが進んでいる一方で、ルールが守られていない実態も見られる。家庭の教育力による部分が影響していることも考えられるので、児童生徒だけでなく保護者への対応も考えていく必要があると思います。

【小】

〇家庭でのスマホのルールや読書習慣については、割合が低い。学校では、家庭への啓発のために、スマホの使い方の学習会や親子読書の集いなど、大変良い取り組みをしているが、毎年のことながら参加率が非常に低く、残念である。保護者も忙しいので、参加しにくい状況なのはわかるが、親子での学習のよい機会なのに非常に残念である。参加率を上げるため、その意義を伝えるとともに、授業参観形式にするなど、負担感なく参加できる工夫を検討してほしい。

５　次年度に向けて

【小中共通】

〇来年度に向けた改善プランについては、小中独自の課題として取り組むものと、一貫校（一貫教育）として取り組むものを整理してプランを考え、来年度にいかしてもらいたい。

次年度に向けて

Ｉ　学校生活にかかわる項目

〇児童生徒が人間関係に高い関心を持ち、かつ敏感であることから、今後もよりきめ細やかな観察と対応と、一人ひとりに寄り添った指導を継続していく。具体的には、日々の観察に加え、ＱＵアンケートやいごこちアンケートを活用する。slimple program による、人間関係の改善や他者理解を目指していく。一人一人の日々の成長にスポットを当てることにより自己肯定感を高める。中学校でのオアシスルームの活用。

２　学習指導にかかわる項目

〇校内研究会や OJT 等を通じた「子供主体の授業づくり」の推進を図るとともに、全校体制での学習規律の再確認と、チーム担任制を活用した指導を進めていく。

〇中学校教員による小学校への乗り入れ授業を活かし、教科の面白さを伝える専門性の接続を推進していく。

〇令和８年度から特別教室での Wi-Fi 環境が整備されていくので、Chromebook を活用した個別最適な学びや協働的な学びを推進していく。

３　小中一貫教育にかかわる項目

〇小中一貫教育推進研究会の中で、課題となっている項目について共通理解を図るとともに、各分科会同士の情報共有を行い、小中の教職員が同じベクトルで取り組むことができるよう推進していく。

〇小学校で積み重ねてきた自主学習への取り組みを、中学校でも活かし習慣化させ、継続していく土台をつくっていく。

４　安全教育にかかわる項目

〇今年度の八田地区教育を語る会では、ＳＮＳとの向き合い方について児童生徒・保護者・教職員で意見交流を行った。参加した保護者の感想には、よい機会を得ることができたという肯定的な意見をいただいた。今後も、保護者がより参加できる取り組みを考えていきたい。

〇中学校では、家庭学習とスマホの向き合い方について、生徒から意見を挙げてもらい三学期から取り組んでいる。来年度に向けて振り返りを行い、生徒自身に考える機会を作りながら継続していく。

５　次年度に向けて

〇小中それぞれの課題については、令和８年度に向けた改善プランに基づき取り組んでいく。また、小中一貫教育の充実をさらに深めるため、学校運営協議会において２つの部会を新たに設置し、委員の皆様にもご協力いただく。